

# カシオペアかるた地域資源解説書

**あ、天台寺**  
天台寺は、岩手県二戸市浄法寺町にある天台宗の寺院。1987年、瀬戸内寂庵が住職として後任を勤め復興の責を果したとされる。また、その際に建てられたアンサイが名物となっており、毎月1回の法話の日と7月に開催される「天台寺あじさい祭り」の期間は、境内に入りきれないほどの参拝者で賑わう。

**い、稲荷さん**  
九戸城の中にある、格式高い香香稲荷神社。この珍しい名前はアイヌ語で「かがやける丘」を意味し、九戸城の松ノ丸跡にその社がある。天和2年（1682）に神社が出来てから代々南部藩主に厚く信仰されてきた。二戸でも格式の高い神社。

**う、公孫樹**  
広々とした樹内にひときわ目立つ巨木。幹囲2メートル、樹高32メートル、枝張25メートルの大イチョウ。九戸村の天然記念物に指定された。足元に波打つように広がった根が、さらに神秘的な印象を残す。秋になると、鮮やかな黄色の葉を成している。

**え、玉川鉄山**  
玉川鉄山は、江戸時代後期に「大野六カ鉄山」として知られる「八戸藩の鉄山」の一つで、江戸時代前期から「大鉄地帯」であったことが「八戸藩日記」による。五、川鉄山創設の年代は不詳であるが、天保5年（1834）には、軽米の豪商瀧沢圓右衛門がこの鉄山の経営を命ぜられたことが知られる。

**お、徳楽寺の萩薬師**  
徳楽寺は、岩手県九戸郡軽米町にある曹洞宗の寺院。所蔵する木造彫刻の体が岩手寺として有名な文化財に指定されている。1558年、青森県三戸郡南部法光寺の末寺として開山した。本堂には岩手県指定の文化財である「木造萩薬師如来坐像」と「木造脇侍菩薩立像」が安置されている。

**か、古屋敷の千本柱**  
古屋敷の千本柱は推定樹齢580年。昭和48年4月1日に町の天然記念物に指定された。道を行き来した牛方が、水飲み場の折に持っていた杖をここに突き刺したまま忘れて立ち去った。その杖が根付いてやがてこの大木に成長したと語り伝えられている。

**き、御所野縄文むら**  
御所野縄文公園は、岩手県二戸郡一戸町にある史跡公園である。縄文時代の集落跡として知られる御所野遺跡を整備して作られ、2002年にオープンした。

**く、浄法寺漆**  
浄法寺漆とは、二戸市浄法寺町を本拠として活動する漆掻き職人が、漆の木から採取した生漆をいう。漆は上中国からを主成分とした天然樹脂塗料である。日本国内で使用される漆の95%以上を中国からの輸入に頼る中で、浄法寺漆は日本一の生産量（国産の約7割）と高い品質を誇る。

**け、折爪岳**  
折爪岳は、岩手県二戸市、九戸郡軽米町、同郡九戸村にまたがる山である。山頂は二戸市と九戸村の境にあり標高は852.2mである。山頂付近にはキャンプ場や展望台があり、展望台からは遠く岩手山や、山を積み重ねて目くらましの伝説があり、こんこんと湧く水は、年間を通じて水温5℃〜7℃と冷たく、ミネラル分が豊富に含まれた軟水。飲めば病気が回復すると言われる、地域で親しまれている。

**こ、金勢様**  
金勢様は子孫繁栄、豊作、商売繁盛を願う神様で、御神体は男性的シンボルを飾った神。二戸駅前を中心に杉ノ木神社・金勢様まつりが毎年9月第3土曜、日曜日に開催されている。

**さ、高森高原風力発電所**  
高森高原風力発電所は、大型の風車11基からなる県内初の風電を併設した大規模風力発電所。地域の皆様に古くから愛される高森高原にあり、発電所の建設にあたっては、自然環境の保全、景観への配慮、環境学習の場の提供など様々な地域への貢献がなされている。

**し、オドテ様**  
オドテ様は、上野がフクロウで半身が人間の様子を呈した。九戸村の昔ながらの伝説として、地元の言葉で「オドテ様」と呼ばれ、運動や天気、病気を言い当てるなど不思議な力を持っている。村政に密められている神様。

**す、南部軍節**  
南部軍節は、桐を主材とした、職人が造る伝統楽器。櫛の美しい木目と「摺り漆」の塗装。そして打ち彫金具。一つひとつが伝統を受け継ぐ職人の気風と格調高い気品を伝えてくれる。

**た、金田一の湯**  
金田一の湯は湯田温泉という名称であった（田んぼから湯が湧いていたことによる）。この温泉の起源は不明だが、一般的に開湯年代として紹介されるのは、寛永3年（1626）である。江戸時代には盛岡・南部藩の指定湯場となり、「侍の湯」と呼ばれた。高度経済成長期には、一大温泉街が形成され、大いに賑わった。

**ち、フォリストパーク**  
フォリストパークは高さ16メートル、羽根の直径20メートルの風車。約7,000平方メートルに咲くチューリップの花畑、雪谷川ダム湖等で知られる他、多くの施設が点在している。

**つ、ヒメボタル**  
ヒメボタルは平成30年度岩手県天然記念物に指定された。折爪岳のヒメボタル生息地100万匹といわれるその群生は、大自然のイルミネーションを生み出す。

**て、九戸の甘茶**  
あま茶は、日本固有の植物で、砂糖の200倍といわれる甘さをもちながら、ゼロカロリー・ノンカフェインのハーブティー。九戸村は、上質のあま茶を年間4トン以上生産する国内有数の産地。

**と、戸井良沢の水芭蕉**  
戸井良沢池にあるミスバショウの群生地で、5月下旬から、中川の清流に沿ってミスバショウとカタクリが可憐な花を咲かせる。遊歩道が整備されており、身近に草花の観察ができる。

**な、鎌刀**  
なまぎなたの町一戸として町民挙げて普及活動に取り組んでいる。かつて姉帯城には小滝御前というなまぎなたの名手もいたとか。町出身者の高校生が、2016年のいわて国体でも少年演技で優勝を飾った。

**ね、産教わらし**  
産教わらしは古くから岩手県や青森県の南（南部藩）を中心に伝わる子供の遊戯をまとめた存在として伝えられている。住みついたり、目撃した者に大衆や幸運をもたらす存在として伝えられている。

**の、岳の湧口**  
岳の湧口は昔の名水20選にも選ばれている名水。その昔武士が爪が折れるまで掘ったといわれる湧き水。

**は、大志田ダムのかき釣り**  
一戸町奥中山地区にある大志田ダム、通称「菜魚湖」では、毎年2月に「氷上わかさぎ釣り」が楽しめる。「初心者にやさしい釣り」をめざし、駐車場・トイレ・地元産直による簡易食道・レンタル用品などが準備されている。

**ひ、ヒエボン**  
ヒエボンは岩手県軽米町のホームページキャラクター。「かるまい」の特産雑穀「ヒエ」の妖精で、HPを飛び出してイベントやテレビに出演しながら町をPRするゆるキャラとしても活躍。

**ふ、稲庭うどん**  
二戸市浄法寺町にあり、なだらかな山容でのんびり歩ける大昔の火山・山麓は山菜採りやキノコ採りで家族連れに人気がある。山名は刈り取った稲を山の裾野に「はせかけ」にした情景が稲の庭のようだったのだったといわれる。

**へ、鳥越の竹細工**  
鳥越の竹細工は、平安の昔、鳥越観音開山の僧が伝えたとも言われている。自生する良質な「スズケ」の一年物を使い、手間を惜しまず編み込まれた製品は、実用的で丈夫。

**ほ、一戸町観光天文台**  
日本屈指の星空を誇る天文台。反射望遠鏡やTV撮影システム、パワドゥオツチンテックプラネタリウムを備えており、お子さんと一緒に星の世界へ没頭できる施設だ。全高3mの木像。軽米八幡宮祭礼行列の先頭に立つ。

**ま、九戸政実**  
九戸政実は、戦国時代から安土桃山時代にかけての武将、南部氏の家臣。九戸城主。九戸信仲の子。政実は行違から数えて一代目にあたることされ、武将としての器量に優れており政実の代に勢力を大幅に広げた。

**み、徳田彦彦命**  
徳田彦彦命は、江戸後期の文政年間、君成田の彫刻師永井久右衛門によって彫られた全高3mの木像。軽米八幡宮祭礼行列の先頭に立つ。

**む、鎌島のフジ**  
鎌島のフジは、野生のフジの巨木。樹齢数百年。根元の周囲33m、フジ蔓が付着の樹頂に達する国内有数のフジとして昭和13年（1938）に国の天然記念物に指定されている。見頃は5月下旬、毎年5月最終日曜日は「鎌島のフジまつり」が開催されている。

**め、十本松**  
幹囲2メートル、樹高26メートル、枝張11メートルの巨木の松の木。地上2メートルから、列名「ほうき松」とも呼ばれている。九戸村の天然記念物に指定されている。

**も、鳥越観音**  
鳥越観音は、平安時代初期に慈覚大師が開いたという伝説が残る古寺。奥院は鳥越山の切り立った崖にある岩窟に建てられている。霊験あらたかな観音霊場として古から賑わい、今なお多くの参拝者が訪れている。

**や、軽米木炭**  
軽米木炭は、生産量日本一に輝いたこともある軽米町の木炭。切炭は地元の人たちから100%使用。着火しやすく、すぐに高い温度が得られ、そのうえ火持ちも良いので、扱いやすさも抜群。

**ゆ、そばがっけ**  
そばや小麦の生地をこねて、平らに伸ばし、小さく三角形に切ったものを、根や豆腐などと一緒に煮て、ニンニク味噌をつけて食べる、県北部の郷土料理。

**よ、ぶつとん**  
二戸地域で生産された豚肉（ぶつ）、鶏肉（こ）、牛肉（ぎ）を混ぜ合わせた食材を使用した料理の総称で、イベント向け料理「ぶつとん」や「ぶつとん」など、各店舗において食材をベースに独自開発提供する料理がある。

**ら、米田温泉**  
米田温泉は、弁天様が座っていた場所に、白い湯花と共に泉が滾々と湧いており、この水を樽に入れて持ち帰り温めて使うと肌がきれいになった。切傷や目の病気に効く薬湯であったとされている。この温泉を扱ってくれた弁天様に感謝し、この地に弁財天を祀ったのが米田「弁天の湯」の由来。

**り、二戸大太鼓**  
二戸出身の盛岡藩士、相馬大伴（1789〜1822）。江戸で兵法武術を学び、二戸で門弟に伝え南部藩の忠臣。二戸大伴太鼓は、この相馬大伴の気概を伝承することを目的に発足した和太鼓団体。

**る、南部帯**  
九戸村の気候条件のもとでしか育たない帯の素材、刈り取りから選別、編み上げまでの手作業。そらすべてがそろって初めて実現する帯き心地、帯除にも負けないゴミを集める力が特徴の帯。

**れ、萬代館**  
萬代館は、明治42年（1909）人形芝居小屋として創業。大正時代に映画上映を始めて、現在の建物は昭和31年（1956）に建設されたもので、空前の映画ブームの時代に建てられた岩手県内で唯一残る現役映画館。平成28年（2016）に国登録有形文化財に登録されている。平成20年に改修され、講演会や舞台発表、会議等にも利用できる。

**ろ、田中館愛橘**  
田中館愛橘は、日本の地理博物地学者。東京帝国大学名誉教授、帝国学士院会員。文化勲章受章者。

**わ、ざるなし**  
ざるなしは、昔から軽米地方の山に自生している木の葉です。「コガ」と呼ばれ、お菓子の無い時代にはおやつのように食べられてきた。

**を、雑穀**  
軽米町は雑穀を古くから栽培している雑穀の里。雑穀は、ビタミンやミネラルのほか老化を防ぐ抗酸化性に優れたポリフェノールを多く含み、今話題となっている腸内フローラの働きによる腸内改善によいとされ、食べることで老化や体質改善ができる健康食品として注目されている。

**ん、山ぶどう**  
ジャンルズどうと九戸村に自生していた山ぶどうは古来より疲勞回復、滋養強壮に、また鉄分を多く含むことから貧血にも良いといわれている。